



3年生の皆さんへ

終業式 2/10 以降の図書室利用について

★貸出の際、返却予定日は登校の予定に合わせて調整します

→貸出時に登校の予定を確認します

★返却が遅れた場合は連絡をします

★卒業式以降の貸出もできます

→入試のために必要な本や進学先からの課題の本など必要な本がある場合は気軽に相談してください



自習できます

身体と頭の疲れにどうぞ！

『薬膳おかゆ さつまいもの卵がゆ』

勉強疲れのストレス緩和には、温かくて消化のよい“おかゆ”がおすすめ！

- だしで煮た米に、さつまいもの乱切りとしょうゆ・塩を入れ、煮込む
- 卵を割りほぐし、まわし入れる
黒ゴマをふってできあがり！



参照：「オレンジページ」1/17号

図書委員のすすめ本



学べる物語



『かがみの孤城』

学校にいけなくなった「ころろ」が部屋の中にある鏡に吸い込まれ、不思議な空間「孤城」に行く話です。そこで「オオカミさま」と名乗る少女に、「願いを叶える鍵」を見つければ何でも願いが叶うと告げられ同じ悩みを抱える6人の中学生たちと出会います。彼らは鍵を探していく中で心を通わせていき、やがて自分たちが孤城に集められた理由やそれぞれの思いを知っていく物語です。

悩みを解決していくことで、友情の大切さ、家族のありがたさなどが痛感できます。人の温かさを学べる本なのでぜひ読んでみてください。

『舟を編む』

出版社で働く不器用な馬締光也は、新しい辞書『大渡海』の編纂メンバーにスカウトされます。

言葉のプロでありながら、人に気持ちを伝えるのが苦手な彼は、仲間とともに多くの問題に直面していきます。その中で辞書づくりに向き合う日々を通して、人と言葉の深いつながりに気づき、自分自身も成長していく物語です。

この物語は1年生の言語文化の授業で扱われた小説です。今から取り組んでいく1年生も、すでに学んだ2、3年生もぜひ読んでみてください。

『かがみの孤城』 辻村深月 ポプラ社

『舟を編む』 三浦しをん 光文社

寒い冬を超えたら…？



みなさんは「春」や「桜」と聞いた時どんなことを思い浮かべますか？暖かい陽だまりやお花見などどこか陽気で優しいイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。この小説はそんな優しい雰囲気からは少し離れた暗く陰鬱な雰囲気で始まります。

この本はとある男性の独白から始まり、1ページ目には「何もしてあげられなかったね」という言葉が使われています。

『桜のような僕の恋人』の主人公の少女は、とある病を患っていました。その病の名はファストフォワード。人よりも速く老いてしまう病気です。まだ若く、美の絶頂期にかかってしまったこの呪いのような病は、少女の心を徐々に蝕んでいきました。「何もしてあげられなかった」という言葉は、その病に気づくことの出来なかった青年の後悔や自責の念が強く現れている一文だと言えます。

彼女を愛し、そして愛されて順風満帆に過ごしていた日常が少しずつ崩壊していく中で青年はどう過ごしていたのか。そして、崩壊した先に待ち受ける結末は何なのか。恋人との淡く儚い思い出を追憶する青年の思いが宇山佳祐さんの手によって彩られ緻密に描かれています。

どうしようもない状況の中でもがき苦しみながらも向き合う、何処にでもいる1人の青年の泥臭い物語です。ぜひ読んでみてください。

『桜のような僕の恋人』 宇山佳祐 KADOKAWA